

ケイトウ 久留米系、デリー系、クリスタルビューティー

学名 *Celosia* / ヒユ科

和名 けいとう

原産国 インド

特性・・・高温と強い日照を好む

開花特性・・・短日

開花期・・・8～9月

栽培環境・・・排水良く日当たりの良い圃場

増殖方法・・・種子



播種・育苗

播種時期・・・3～7月

種子休眠・・・なし / 発芽温度・・・25℃

覆土・・・嫌光性の種子のため、必ず覆土する。

※発芽までに乾燥させると、発芽が極端に悪くなるので注意

直播き又は移植

・移植の場合

128穴プラグ1粒播き。

発芽温度25℃。育苗温度16～30℃。

※基本的に移植を嫌うため、プラグ内で老化させない事

定植

○ノーピンチ栽培

定植間隔・・・12×12cm、8条植え

畝・・・100cm、通路・・・60cm(137本/坪)

クリスタルビューティーは久留米とほぼ同じ開花期。やや株間を広めに取り、大輪仕立てとする。

○ピンチ栽培

定植間隔・・・25×25cm、4条植え

畝・・・100cm、通路・・・60cm(33本/坪)

ネットを2段または倒伏防止のヒモを使う。

直播き2条植えなどの場合、草丈20cm、40cm頃に2回土寄せを行っても良い。

ノーピンチ栽培より出荷期は半月程度遅い。

5～6本仕立てとする。

ネット・・・2段

マルチ・・・なし

定植前に土壤消毒しておくこと。

ECの高い圃場で栽培すると肥大する。

肥料

窒素分は控えめで、前作の肥料分が残っている場合は無肥料。生育に応じて追肥する。

ピンチ栽培はノーピンチ栽培よりやや多肥栽培とする。

(出荷期に下葉がやや黄ばんだ状態がベストの施肥量)

カリ分の不足で茎割れが起こる。

有機質は多めに。

参考施肥量:成分量でKg/10a当り、窒素1、リン酸1、カリ3。肥沃な場所ではこの半分程度を施与。その他に堆厩肥を2,000Kg程度。

作型

◆盆出荷・・・5月上旬播種で、8月上中旬出荷

◆彼岸出荷・・・6月中旬播種で、9月中旬出荷

◆暖地向き抑制 7月上旬播種で、9月下旬～10月出荷

夏の残暑を利用して草丈を伸ばす作型。

6月下旬をすぎたの播種の場合、短小開花を防ぐため播種後から必ず電照する。

電照しても草丈の伸びが遅い場合、水と肥料を少し多めに与えるように管理する。

草丈が伸びた所で電照を打ち切り、花芽を誘導する。

この作型ではノーピンチ栽培を基本とする。

◆抑制栽培・・・16～17時間日長で花芽を抑制し、栄養成長を続ける。

電照は、日長延長でも、夜間中断でも。電照打切りは草丈75cmが目安となる。

病虫害

立枯れ病、疫病等。播種前に土壤消毒を徹底する。または連作を避ける。

定植前の苗、または病気発生の初期にオーソサイドを散布する。

病気の症状が出た場合、すみやかに罹病株を抜き取り廃棄すること。

生育初期のヨトウムシによる主茎の食害には、ネキリトン粒剤等。

その他にアブラムシ、アオムシ、ネコブセンチュウ等に注意。

※薬剤については使用前に必ずJAや普及所の担当者に確認をとる事

出荷

切り前…始めは扇子のような平らな花型で、咲き進むと花型は球状に変化するので、市場の好みにあわせて切り前を決める。ただし、花の下の部分が汚れたり、種子ができたりする前に出荷すること。

切り花処理剤は、導管の水揚げを良くするために、クリザールK-20C等を使用する。